

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27年 2月 16日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470103544		
法人名	(有)藤山商事		
事業所名	あいグループホーム		
所在地	〒732-0043 広島市東区東山町15番2号 (電話) 082-264-1006		
自己評価作成日	平成27年 2月 6日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kairokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JievosyoCd=3470103544-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島県広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成27年 2月 16日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

閑静な小高い場所にあり、交通の便の良い位置にあります。4・5階で見晴らしが良く市内が一望でき、四季をしっかりと感じる事ができ、公園で遊ぶ子どもの声や姿を見ることが出来ます。また、病院が併設されており、週3回の医師の往診があり、日頃の体調管理が行えています。容体が悪くなった時には24時間体制で医師と看護師と連携して速やかな対応ができ、安心して生活していただけます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

閑静な住宅街の高台で市内を一望でき、交通の便利な場所に位置している、あいグループホームは病院に併設し4、5階にあり、安心安全な医療体制があり、家庭的な雰囲気の中で、一人ひとりに合ったペースで対応し、その方の思いを大切に安心した生活が過ごせるよう理念を再確認し、自然体で穏やかな寄り添った介護に努めている。管理者は外部研修に力を入れ、職員教育を熱くしている。全職員は方針を共有し家族、職員との信頼関係を大切に心の通うコミュニケーションを重視し、きめ細やかなケアをしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	独自の理念を作成し、我々職員一同が振り返りながら理念を共有し実践につなげ、少しずつではあるが確実に成果が出ている。	あいの理念(明日のことを思いわずらう事よりも、今日一日を、輝いて)を全員で共有し実践につなげている。日々生活の中でステップアップしながら理解し取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎月一回、母体である病院が実施している公園清掃にグループホームあいとして、少しでも地域の方々に役立てるよう、自主参加をしている。	毎月第3水曜日に病院、グループホームの職員で東公園の清掃活動をしている。	地域交流の一環として、病院と合同で夏祭りやクリスマス会等のイベントを開催される機会に、回覧等で地域広報され、地域の方の参加を求められることが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の人々に認知症の理解はなかなか難しいと思うが、地域の皆様に更なる理解を求めていく必要があり、家庭でも認知症の方のお世話をされている家族の悩み相談に乗れるように準備をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は必ず奇数月に入居者様の家族・地域包括支援センター等が参加され、行事の報告・入居者様の様子・入居状況について報告をし、サービス向上に活かし理解をしていただいている。	運営推進会議は2ヶ月に1回家族、地域包括支援センター職員、管理者、ユニットリーダー、ケアマネージャーの参加で開かれグループホームの様子、行事を報告し参加者の意見を聞き評価をしてもらいサービスの向上に活かしている。	運営推進会議に地域の民生委員、消防署、派出所、社会福祉協議会等に参加を求められて、防災や防犯、ボランティアの情報を広く得られて、今後の支援に生かされることが期待される。
5	4	○市町との連携 市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	必要書類の提出を行い、相談させてもらっている。市の集団指導研修にも参加し、より一層中身の濃いケアサービスに取り組んでいる。	東区役所に困った事、わからない事がある時、指導を受けに行き、詳しく聞くことができ、情報を得ている。できるだけ顔のみえる関係を築くようにしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の施設内研修を実施し、職員全員でスキルアップを志し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全職員は身体拘束の研修を受け、理解している。現況では身体拘束はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	内・外部の研修などの参加で学び、スタッフ間で共有し、意識して日々のケアに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	学ぶ機会を持てるよう努力し、支援していく必要がある。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約については十分に説明を行い、理解・納得して頂いた上で同意の署名・押印をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	管理者・スタッフに話しやすい環境であり、コミュニケーションを日頃よりしっかりととれるように心掛けている。また、要望にもできるだけ応えられるようにしている。	管理者、職員は利用者や家族に親しみを込めて接し、日常的に自由に意見や要望を述べて頂き、検討しながら支援に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者は管理者と共に、個人面談で職員の意見提案を聞いて運営に反映させている。	代表者、管理者は職員の要望、意見に耳を傾け話を聞いている。個人的な相談や、アドバイスも、してもらえる。管理者は介護に対して厳しく指導し、それを職員は受け止めコミュニケーションを取りながら運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	勤務1年以上の職員に対してはリフレッシュ休暇が2日取れ、十分に休養できるように職場環境に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人職員には、個人の力量に応じて時間を掛けて研修を行っている。外部研修に参加し、スキルアップできるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同業者との交流がほとんどなかったが、外部研修に参加することで少しずつ交流が出来てきたので、交流を通じネットワークを広げていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	スキンシップを心掛け、傾聴するように心掛けている。否定はせずに心から相手を思い、出来るだけ不安を取り除けるよう、声掛けをしっかりと行い、信頼関係が築けるようにしている。また、不安がある場合はその都度傾聴し、納得いくよう、分かるよう説明している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	困っている事、不安な事、要望などあれば何でもご家族様から言っていたるように信頼関係作りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人とご家族から話を聴き、必要とされる支援ができるよう、管理者・ケアマネージャー・職員間でよく話し合い、統一したケア作りを心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	洗濯物干しや洗濯物たたみ、おやつの盛り付け等、職員が声掛けをしながら一緒に行い、良い関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人やご家族から、これまでの生活習慣や大切にしてきた思いを聞き、家族と一緒に続けていける様に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの方が来られた時にはゆっくりと過ごしていただけるように配慮している。馴染みの場所への同行は難しいが、家族の方に協力して頂いている。	家族や親戚の方の訪問があり、ふれあいの時をもたれている。家族と墓参りに行かれることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	リビングの席を決めており、皆様の関わりが持てるようにしている。入居間もない方に対しては、交流ができやすいよう職員が掛け橋となっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	リビングの席を決める事により、間違える事なく席を忘れず、両隣の人、前の人、皆様と関わりが持てるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で、今までの生活を自然に話が出来る様に思いをくみ取りながら生活の中のケアに努めている。	一人ひとりの意向、望まれる生活に対して言動をしっかりと受け止め、僅かな事でもその方の思いをくみ取り、申し送りノートで伝達しながら、職員間で観察力をつける事に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	一人ひとりの生活歴等を日頃の会話やご家族からお聞きし、思いをくみ取りながらケアに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一日の様子や話された事を記録に残し、申し送りで共有し、残存能力を維持できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	現場職員に担当を持ってもらい、細かなアセスメントを記入してもらい、家族・ケアマネージャーでモニタリングを実施し、より一層しっかりした介護計画書を作成している。	担当職員はケアプランを立てるとき主になり、アセスメントを評価し、家族、ケアマネージャーでモニタリングを実施し、利用者のニーズを第一として、望まれる必要なサービスを取り入れた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別のケース記録を細かく記入し、申し送りで情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご利用者様のニーズに合わせた支援と状況に応じた支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域・資源を把握し、協力してもらいながら支援に活かしていきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	週に3回、ワカサ・リハビリ病院のDr.の往診がある。ご本人、ご家族の希望される医療機関への受診はご家族対応になっているが、状態やしょうじょうの情報提供を行っている。	入所の際利用者、家族の希望される医療機関を聞き耳鼻咽喉科、眼科など家族が受診対応している。週3回主治医の往診があり、適切な医療が受けられる。母体病院の看護師とのコミュニケーションを密にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	いつもより日頃と変わった音があれば、すぐに併設の看護師に相談・報告し、適切に対応できる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設の病院が24時間体制で対応して頂けるため、入居者様は安心して過ごされている。情報交換もスムーズに行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化、終末期となりつつある場合は、家族の思いをその都度確認し、職員は家族の思いに沿った支援が出来る様に努めている。	重度化した場合、家族の思いを聞き、医師、家族、職員で事業所での対応を共有し、併設の病院の医師、看護師の手厚い対応がされる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	不規則ではあるが、講習を行っている。急変や事故発生時には迅速に対応できる様に勉強会を開催し、実践力を身につける為のマニュアルを配布している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	いつもではないが、消防署より職員に来ていただき、火災時の注意事項を勉強している。日中想定火災避難訓練は定期的実施している。夜間想定避難訓練も行っていきたい。	年2回行う避難訓練は1回は消防署職員の立ち会いのもとに、災害時、利用者をどう守るかシミュレーションをしながら厳しい指導を受け、夜間想定訓練も行う。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	プライバシー、個人情報については十分に配慮している。言葉遣いには職員間で注意し合い対応している。《親しき中にも礼儀あり》を基本にしている。	言葉掛には注意し、日頃からコミュニケーションを取り敬う気持ちで接する事に徹している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人が自己決定できるような選択肢を提示し、なるべく思いに沿った支援ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日々の生活については、ご本人の今の気持ちに沿えるよう、声掛けにより確認している。入居者様の希望に近い状況で支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その日に着る服など、本人と楽しみながら決めている。その人らしく身だしなみを整えている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	気の合う入居者様同士が談笑しながら楽しく食事ができるように関を決めている。一緒に準備は行っていないが盛り付け方などアドバイスをいただきながら、職員と一緒に楽しく準備している。	食材業者からのレトルト食材を調理し利用者の好みや状態に合わせて刻み食、粗刻み食、汁のトロミ食などを提供している。おやつレクレーション(焼きそば、たこ焼き、ホットケーキ、カレーライス)は利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	外部委託による高齢者向けの栄養バランスのとれた食事を提供している。一人ひとりに合わせてきざみ・極きざみなど対応している。食事量の少ない方には栄養飲料やゼリーなど、カロリー摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	個人の生活習慣に合わせて口腔ケアの支援を行っている。できるだけ毎食後に口腔ケアが行えるようにしている。入れ歯の方については就寝前に義歯洗浄剤を使用している。必要な時には歯科受診によりブラッシング・歯垢除去が受けられるように支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンの把握に努め、その人に合った間隔でトイレの声掛け、誘導を行っている。尿意・便意を失わないよう、トイレで排泄できるように支援している。	一人ひとりの排泄習慣を把握し、できるだけ便器に座ってトイレでの排泄を支援し、夜はオムツ使用の方も昼間はトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便の回数、量、状態の確認を行っている。運動や好みの飲み物で水分摂取ができるように支援している。便秘が続く時には緩下剤の量や坐薬の使用をDr.に相談しながら決め、排便があるよう職員一同排便チェックをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週に2回の入浴ができるように支援している。職員の都合で曜日や時間を決めてしまっているが、本人の希望の曜日や時間の変更には無理のない範囲で対応している。	今は特浴の方ではなく週2回の一般浴で浴槽の中でしっかりと浸かり、一番気持ちの良い状態になるよう男性職員と2人で介助をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活習慣に合わせて居室で休息できるようにしている。夜間も2時間毎に巡回し、必要な方には小ドアをあけて安否確認をし、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬一覧表を作り、薬の用法、用量がいつでも確認できるようにしている。新しく処方された薬や変更になった薬は申し送り帳に記入し、服薬管理をきちんとしている。		

あいグループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯物干しや洗濯物たたみ、おやつ準備、お茶とりなど役割を持って過ごしていただけるようにしている。個人の生活歴や楽しみ事の合把握に努め、支援していきたい。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	家族の協力を得ながら公園内の散歩に行ったり、外出の機会を増やしていきたい。	家族の協力での外出、公園の散歩、野球観戦などの支援をしているが、今年は外出計画をしっかりと立て、回数を増やす等の、外出支援をする事に努める。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理できる方にはご自分で管理し、使えるように支援している。管理が難しい方が多く、事務所で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば電話をかけた、手紙のやりとりができるように支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングの窓が広く、毎日の天気の確認がしやすく、新幹線や大型ショッピングセンターなどが見え、眺めも良い。閑静な住宅街にあるので不快音も少ない。台所、浴室、トイレの清潔に努めている。	グループホームの入口のドアは優しい花のシールが温かみを感じる。リビングの大きな窓から新幹線や街の景色の眺めが良く、東山公園の木々は四季を感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	スタッフルームの前にソファを置き、入居者様同士や職員と気軽に楽しくお話を、寂しい思いをされないような居場所を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人やご家族と相談しながら居室環境を整えている。居室には家族の写真やご自身の作品を飾っていたり、仏壇を置いている方もいらっしゃる、本人が居心地の良い居室作りに努めている。	自宅で使用されていた物品、利用者の家族の写真などを置き、利用者が居心地よく過ごせる居室に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレが分かるように貼り紙をしている。ご自分の部屋が分からない方には職員手作りのお名前を掛けている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

あいグループホーム

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームあい

作成日 平成 27 年 2月 16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	夜間を想定した火災避難訓練を行う	夜間を想定し、消防職員による指導を実施する	夜勤を行っている職員を対象に、一人で安全に誘導できるようにシュミレーションをし、体制を整える	6ヶ月
2	4	運営推進会議の家族参加人数が少ない	一人でも多くのご家族に参加していただき、意見交換し、サービスの向上につなげていく	なかなか来ていただけない家族へも運営推進会議日程を案内する	12ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。